



見学旅行見聞

本校の見学旅行は11月18日～22日までの4泊5日の日程で実施されました。

生徒は、この見学旅行に向けて沖縄県の歴史や文化および名所旧跡など、約2ヶ月の歳月を費やし事前準備をしてきました。その甲斐あって、帰省した生徒の顔には充足感が漂っていました。

すべてはご紹介できませんが、引率した先生方から見学旅行中の出来事などを一部分のみご紹介いたします。



浦幌高校日記

地元浦高の様子をお届けします

☆沖縄縄の自然と文化に触れる5日間

(教諭：米澤伸一)

生徒にとって修学旅行の一番の楽しみは、みんなでわいわいがやがやと夜遅くまで起きていることなのではないでしょうか。昔であれば、寝台車や連絡船での楽しみもあったのでしようが、今はその日のうちに沖縄についてしまいます。大部屋で雑魚寝というのもなく、ホテルでこじんまりと枕投げです。でも、いつの時代も変わらず、違う文化の体験というのは旅行の楽しみです。

那覇空港に着くなり、「暑い暑い」と

と
気温の違いを思い

知り、翌朝食事の時間の7時にやっと日の出を迎える時差に驚きました。ゴーヤチャンプルー、沖縄そば、ラフテーなどなど沖縄料理も食べては見たけれど、やはり恋しいあふくるの味。食べられないものは旨く感じないのも、まだ子どもだからでしょうか。

ガイドさんや普通のお店ではまったくの標準語で、沖縄弁はサービスで教えてくれるものだけでした。「ちゅらさん」の世界はないのかと思っていたら、お土産屋さんには「おばあ」がいました。沖縄弁にも触れ、自然と文化を満喫した5日間でした。子どもたちは「また来る」という思いを強めたようでした。

☆ひめゆり資料館・轟の壕へとどろきのごうく

(教諭：大浦康宏)

見学旅行2日目は、ひめゆり平和記念資料館と轟の壕(とどろきのごうく)を訪れ、第二次世界大戦における米軍と日本軍の最後の陸上戦となった沖縄戦について学びました。

この戦跡を訪れる前に、生徒は学校で事前学習を行い実際の見学に臨みました。

ひめゆり平和記念資料館では、生徒が自分たちの言葉で綴った平和宣言を読み上げ、また自分たちの手で折った千羽鶴を捧げ、戦争で亡くなった学生の冥福を祈ると共に平和への誓いをあらたにしました。資料館内では、熱心に展示に見入り、自分たちと同じ年頃の学生が戦争で若くしてなくなっていた現実を目の当たりにし、言葉にはできない思いを抱いていた様子でした。

轟の壕は、沖縄戦で住民の避難場所として利用され、実際に多くの方が亡くなった場所でもあります。実際に中に入ると本当に真っ暗で、湿度が高く、この中に何週間もいなければならなかったと考えただけでもぞっとしました。壕の中で現地のガイドの方から当時の様子を詳細に聞かせていただき、戦争の臨場感が伝わってきました。生徒は真剣な表情



上：雨の首里城 中：ホテルの夕食（不人気のゴーヤ） 上：轟の壕への急坂 ▶

で(ほとんど顔はみえませんが)暗く、暑い中でも熱心に話を聞き、戦争の悲惨さを身にしみ感じて取っていたようです。

☆マリンスポーツ体験

(教諭：松原明香)

見学旅行4日目は、那覇から北東に約90km、本部町の海岸でマリンスポーツを行いました。あいにく風が強く、やや曇り空。肌寒さを感じつつ、「沖縄の海」に向かいました。シュノーケリングでは、何事も初めて、興味しんしん、といった様子で「膝まで上がらない、引っ張って」「寒い！」「背中しめて〜」等々喚声をあげながら、少しだけ「なんちゃってダイバー」の気分でウェットスーツに着替えました。

沖縄民謡を取り入れた準備体操をインストラクターのお兄さん・お姉さんにご指導いただき、まずはプー



「美ら海水族館」のジンベエザメや熱帯魚たち



ルへ。ここではシュノーケルと足の使い方、ライフジャケットを利用した浮き方に慣れることができるようにコツを学びました。ぶかぶかくと浮く体を思うように動かすには多少時間がかかりましたが、要領を得ると体力を使わずに水中で休む方法や、足ひれを効果的に使ったうまく進むこともできるようになりました。

さあ、いよいよ海です！ 船で沖まで運んでもらい、ちむどんどん(沖縄方言で「胸がどきどき」の意味)!! 期待で胸が高鳴ります。波が高いため、酔いそうになりながらも「バディ」を合図に入水。船の上よりも水中の方が温かい。早速、水中を覗いてみると、クリアに数々の生物が現れました。3日目で訪れた「美ら海水族館」で見たような熱帯魚、海蛇、巨大ウニ、ヒトデ：そして一面に広がるサンゴ礁。波に飲まれないようにと気をつけながら、何度か何度も海の世界に見入っていた様子でした。実際に自分の目で見た感動はひとしお。

その他、なまこ爆弾をしたり、バ

ナボートで疾走感溢れる水しぶきをかぶったり、ビーチバレーで砂浜を駆け回ったり、クルージングで旅の疲れを癒したりと堪能しました。今回の見学旅行では、日常では味わうことのできない沖縄ならではの自然を体感することができ、貴重な経験になりました。

空撮写真の寄贈

11月30日(金)、浦幌町で農地保全工事を担当する平田建設、大川組、フクタの3社から、本校全景を撮影した空撮写真、パネルなどが寄贈されました。

地域貢献の一環から、3社は浦幌町内におけるこの事業を模索していたところ、この時期に本校が来春から募集停止となるニュースを知った3社から寄贈の依頼があり、即日決定を致しました。

空撮写真はA2サイズで、飛行船状の「スカイキャッチャー」を利用して上空50mから撮影したもので、校舎はとも美しく映し出されています。また、この映像と同じ写真も職員と生徒分、寄贈していただきました。

この他、空撮写真を約300画像撮影しており、そのデータをCDとして寄贈していただき、今後、卒業式や閉校記念事業等で活用できるようになっています。

記念に残る空撮写真を寄贈してい



上：スカイキャッチャーで撮影した浦幌高等学校全景
右：平田建設、大川組、フクタの3社の皆さんと竹内校長



いただいた平田建設他3社のみなさまには、心から感謝を申し上げます。

(文責/教頭 今 勉)